

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開士大平日普上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。



No.16

平成 26 年 3 月 1 日 発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ http://myojyujj.or.jp

妙壽寺のお棚経

当山では7月初旬から15日まで、僧侶がお盆の棚経にお檀家各家に伺っております。お盆の起源は『孟蘭盆経』にある目連尊者の故事に由来し、亡き父母の孝養と先祖への供養にあります。

日本の農耕文化の中でこの仏教行事であるお盆は、大切に継承され今日に至っております。とりわけ、このお盆の期間に故人・先祖をお迎えする日本人の心持ちは、真摯で清らかなものでありました。たとえば「大切な仏様には馬に乗って早く来ていただき、牛に乗ってゆっくりお帰りいただく」と言う、おもてなしの心は今も大切に伝わっております。棚経の意味もこの期間、特にお仏壇をお飾りする中で精霊棚（施餓鬼棚）を設けるところから、ここに僧侶をお迎えし読経することで「棚経」と言われるようになりました。

当山では深川時代（旧地江東区猿江）の江戸の昔から住職はじめ僧侶によるお盆お棚経にお詣りをし、ご家族でお迎えする故人・先祖方に法華経お題目をご回向申し上げております。

さらに7月16日は、組寺（江戸時代からの同じ法華宗寺院）住職・棚経僧侶二十余名が^{しやうし}出仕してお盆の法要が奉修されますので、ご来山をいただき共にご供養くださいますようご案内申し上げます。



イラスト／法華宗布教機関誌『無上道』（2011年8月号）引用



旧臘十二月一日徳島市妙典寺落慶法要に開眼された四天王像。
（左より、大毘沙門天王、大増長天王、大持国天王、大広目天王）
当山檀信徒有志・職員による寄進御尊像。

無縁社会と寺縁その13

来る3月10日、法華宗では東日本大震災第四回忌法要を被災された水戸市感応寺において奉修いたします。
さらに翌11日には東北教区・同教区青年会により、宮城県名取市^{のりけ}関上、仙台市若林区荒浜において唱題回向、福島市立正院に集合して宗門建立角卒婆に供養法要を奉修いたします。
また、同月10日には東京教区青年会「吼える」主催による唱題行脚と供養法要が東京大空襲七十回忌として両国東京都慰霊堂で奉修されます。
3年前の大震災・津波では3万人近い尊い命が失われ、69年前の東京大空襲では10万人の人々が戦禍に斃られました。
人災と天災の異なりはあっても、その時その場で人生の時間の中にあつた人々が非業の死を遂げたという事実は、その日一日の出来事ではなく、その人生の数だけの魂の終焉であり、生き残った私どもに決して忘れてはならない多くの事共を残したと言えます。
今、声高に改めて「その死を無駄にしない」と多くの人は語りますが、その魂と対峙した私どもはどのようにこれを受け止め、その思いを正しく行ないにしていくなか、という大きな命題をこれからも果たしていかなければならないと考えるものであります。

鴉 鵲

INFORMATION

（ご連絡・お申込は妙壽寺まで） 電話 03-3308-1251 FAX03-3308-7427

猿江稲荷大祭および正隆会「両国界限」ウォーキング

本年は、昨秋お知らせ致しました妙壽寺猿江別院が着工の予定ですが、この基礎工事を見学し、下町の香りが漂う両国界限を散策する正隆会ウォーキングを計画いたしました。奮ってご参加ください。

日 時：平成 26 年 5 月 1 日（木） 午前 11 時 例大祭法要（約 30 分）
集合場所：猿江稲荷社前（江東区猿江 2-5-14）
地下鉄半蔵門線・都営新宿線「住吉」下車、B1 出口より徒歩 2 分
行 程：猿江稲荷（別院予定地）→（車移動）→昼食・両国ちゃんこ「江戸沢」
→東あられ本舗→復興記念館→相模博物館→江戸東京博物館（入場口で解散）
参 加 費：参加料 3,000 円（猿江稲荷大祭会費およびお土産）
昼食費は実費（3,000 円程度）
お問合せ：猿江大祭事務局 中島（携帯電話 090-1508-1188）

妙壽寺 2014 春夏スケジュール

3月21日^金 春の彼岸法要
午前 11 時：中日合同法要 初座
正午 12 時：歴代墓所・正隆廟法要・動物廟法要
午後 2 時：中日合同法要 第二座

7月16日^水 孟蘭盆会施餓鬼法要
午後 1 時：法話 午後 2 時：法要
棚経（たなぎょう）・上記参照
7月上旬から15日まで、各お檀家へ担当僧侶がお盆棚経に伺います。

9月23日^火 秋の彼岸法要
午前 11 時：中日合同法要 初座
正午 12 時：歴代墓所・正隆廟法要・動物廟法要
午後 2 時：中日合同法要 第二座

正隆会
【SHORYU-kai】

午後 2 時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

4月12日（土）	大僧正日照上人祥月忌 勉強会「心が温くなる日蓮の言葉」拝読 16
5月1日（木）	猿江大祭参加およびウォーキング
6月14日（土）	写経会
7月12日（土）	興隆学林平島盛龍教授特別講義
8月	休講
9月13日（土）	勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 18
10月11日（土）	課外活動ウォーク（場所未定）
11月8日（土）	勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 19
12月13日（土）	三千返唱題会 釈尊成道会

興隆学林校舎新築 御寄付のお願い

兵庫県尼崎市大本山本興寺境内にあります、法華宗興隆学林は昭和 48 年建設から築 40 年を迎え、老朽化・耐震構造等を鑑み、この度同本山隣接地を購入し、地上 4 階建ての新校舎を土地・建物代総工費 6 億円で建設事業を行います。

そのため、法華宗では全国寺院に御寄進依頼すると共に、全檀信徒に御寄進を依頼することとなりました。法華宗の将来を担う僧侶の育成（興隆学林専門学校＝住職教師資格取得機関）のため、御理解とご協力のほどお願い申し上げます。

お願いする寄付金一口一万円（一口以上、または一口以下の寄付金もお受けさせていただきます）。なお、税制上の優遇（「寄付金領収証」「特定公益増進法人の証明書（写）」）が発行されます。

寄付金は当山受付にご持参、または郵送にてお願い申し上げます。

●12月22日 お焚き上げ法要
一年間当山において拔魂された仏具等をあらためて読経供養し、お焚き上げいたしました。
●1月1日 元旦国禱会
午前5時一番太鼓・半鐘に続き、当住上人・大坪顕孝師・石塚泰道師の読経による国禱会法要が奉修されました。元旦には200余名、三が日で延べ400名のご参詣をいただきました。
●1月18日 新年総会・懇親会
午後2時より本堂において年頭会祈願法要、3時より鍋島客殿2階大広間にて55名が参加して総代・世話人・婦人会総会開催。報告・依頼事項・年間予定が話し合われました。

4時からは職員も参加して懇親会となり恒例の福引きが和やかに行われました。
●1月20日 小沼スミ子夫人逝去
昭和50年から30数年にわたり当山に奉職された小沼スミ子夫人が自宅にて逝去されました。行年85歳、法号温順院妙鈴信女。21日当住上人納棺にて読経、23日通夜当住上人・久美夫妻翌24日当住上人・久美夫妻、佐々木明乗上人・和子夫妻が参列。在りし日の円満なお人柄を偲び、故人とお別れをいたしました。
●1月23日 東京教区新年会
午後1時より銀座アスター御茶ノ水資館にて、法華宗東京教区寺院教会僧侶による新年会が開催されました。
●2月2日（10日）佐々木上人テーブルウェア・フェスティバル 入選
佐々木明乗上人（徳島市妙法寺住職）製作のパート・ドヴエールのガラス作品が東京ドーム会場に展示されました。5年ぶりに出品され入選し、多くの方々が鑑賞されました。
●2月3日 節分会
午後2時より正隆会主催による節分追攤会法要が奉修され、法要後当住上人、石塚師が鬼と

中庭造成中

当山では開宗七五〇年後期記念事業として東祥苑（新庫裏）を建設し、その後内田祥哉先生（当山総代）と三浦清史先生ご監修の下、毎年度境内整備を推し進めてまいりました。

昨年4月より念願でありました渡り廊下と西洋苑の間の中庭を造園師の松本恵樹氏（春秋設計工房代表）、坂本造園に依頼し、新たな茶庭として造成しました。東側は次年度の作庭となります。ここにご報告申し上げます。



なり豆まきが行われました。
●2月9日 泰宗寺通夜本葬
東京ブディストクラブ会員の泰宗寺住職旗本宏昌先生（11月13日御逝去80歳・元全仏事務総長）の通夜が2月9日（翌10日本葬儀）に同寺にて執り行われ、当住上人が参列されました。

三吉 泊さん、本日はお忙しい中、時間をお繰り合わせいただき、ありがとうございます。

たまさか家内の実家(代々木)がちょうど泊さんのご自宅の近くということで、こちらにお出ましをいただきました。大変ご縁を感じております。

また泊さんには、当山の正隆会ウォーキングで東映アニメーションギャラリー見学(平成23年)の節は大変お世話になりました。

泊さんと近くお話をさせていただいたのは、実は平成11年にお母様がお亡くなりになって、妙壽寺でお葬儀をされたときからですね。その葬儀で、お弟様の三夫様(博報堂ご勤務)のご関係もあったと思いますが、芸能関係の方々はじめ、妙壽寺始まって以来のたくさんの方々が届けられたことです。

泊 お蔭様で立派なお葬式ができました。ついこの間も葬儀にお見えになった方に立派なお寺でしたねと言われました。15年も昔のことでした。音吐朗々立派な和尚さんとも言われました。700を越えるお花が届いて本当にびっくりしました。岡田茂会長も来て下さいました。

三吉 岡田会長がご健在のころに何度か東京広島県人会でお会いしたことがございます。私の祖父、先々代の大僧正日照上人は広島県福山市出身なんです。私は広島の実家ではないですが、東京広島県人会に入りませんか、ということを入れていただいて、本当にカリスマ性のある、親分肌の方でしたね。

泊さんは長い間、映画、テレビで大変ご活躍をされてられました。特に日本人の心持ちあるいは精神といえますか、そのあたりに大変関係の深い仕事をされております。そのあたりをお聞きしたいのと、それから、私自身は芸能方面、とりわけ時代劇とか映画に思いが強いものですから、お伺いできればうれしいと思っています。



三吉廣明 上



泊 懋氏

邦画隆盛の頃

三吉 東映に入社されたのはいつ頃になりましたか。

泊 昭和30年に東映に芸術職で入社しました。芸術職というのはプロデューサー、監督、シナリオライターを目指すコースなんです。私は助監督を希望して大泉の東京撮影所に配属になりました。

当時の東映は唸りを上げて前進していましたから、撮影現場は3日徹夜なんていうのは当たり前で、私はたちまち身体を壊して1年あまりで本社企画本部に移動しました。配属は映倫審査係で残酷描写や性描写、映画の面白いところをカットしてもらう仕事でした。2年後脚本課に移動して、当時は東映とニュー東映と二つの配給系統を持っていましたから週に4本の脚本が必要で大忙しでしたが、こちらは何とかして面白いところを作ろうということでした。(笑)

三吉 資料を拝見すると、特に印象深かったのは、高倉健さんの映画のデビュー作の時にご入社されて、最初に助監督を務められ、カチンコを叩いたとか…。

泊 そうでした。初めて現場に出たのが「電光空手打ち」という映画で高倉健のデビュー作でした。健さんの前でカチンコを叩いて私の映画人生は始まりました。健さんも私のカチンコで初めて芝居をして役者人生が始まった訳で、これだけが私の自慢です。

健さんはその後「網走番外地」で大ヒットし「唐獅子牡丹」もブレイクして大スターになって行くんですね。やがて東映を離れて大作に出演して見事な男を演じて行きます。

健さんへの思い入れが強いものですからちよつとお話させてもらいますが、私が東映に

副社長で戻った頃健さんと再会しました。その時に、私は健さんの前でカチンコ叩いて映画人生が始まったのだから最後も健さんの前でカチンコを打ってそれで辞めようと、ずーっと思っていたんだ。そう言いました。「僕が出て、泊さんがファーストカットのカチンコ打って、その映画は当たるね。ゾクゾクしてきたよ」健さんはそう言ってくれたんです。その翌年に「ぼっぼや」が決まりました。健さんが20年ぶりに東映に戻ってきたぞと、撮影所は沸き立ちました。

三吉 大ヒットでしたね。

泊 その時は東映アニメーションに戻っていましたが、健さんと男の約束を果たしに本業はサボって健さん登場のファーストカットを打ちに、北海道滝川の現場に向かいましたね。前の晩は羽田のホテルに泊まって、カチンコの片手打ちの練習を何十回もやって。

三吉 そうですか。(笑)

泊 1月15日厳寒の北海道ですが、熱い思い出ですね。健さんは「カチンコが鳴り響いたよ」と駆け寄ってきて「忘れません」と握手してくれました。健さんから宝物のような手紙を貰いました。「泊ちゃんのカチンコから気を貰って『ぼっぼや』は完成しました。役者は気を貰うことが本当に大切なんです。忘れません」と書いてありました。

任侠を演じて地歩を築いた健さんは任侠を貫いたと思います。作家の陳舜臣さんは、中国では道徳の第一番は俠、正義はすぐ180度変わる、信頼すべきは俠である、と言ってますね。俠の字を辞書で引くと、義理堅い風骨を持つ人、男気のあるさまとあります。

健さんはご住職のおつしやった任侠映画から文芸大作までこの姿勢を変えていない、ゆるがない人間力なんです。

三吉 今のお話でちよつと思ひ当たりますのは、先ごろ文化勲章を受けられた高倉健さんという大変な映画人生を送られた俳優さんですが、これまたご縁で、妙壽寺のお檀家の大原麗子さんが、確か「網走番外地」で共演されており、多分十代の終わりごろじゃないかと思ひます。

今度は私ごとですが、昭和44、45年が東大闘争で、あの時に、「とめてくれるな、おっかさん」という、あの有名な唐獅子牡丹の学生運動のボスターがあったりする時代で、そのころ、私は全共闘世代の10歳年下ですから、安田講堂事件の時は小学校5年か6年でテレビを見ていました。

また、母堂実家のご信者婦人が、伊東で劇場を経営されており中学生のころに行った時に、まさに上映していたのが健さんの「唐獅子牡丹」。あの時の健さんの格好よさと、富司純子さんの美しさ。何て美しいのだろうと。

私は歌舞伎を観に行きますが、「そうだなー、富司純子の息子さんだから菊之助はきれいなわけだ」って。ある先輩が、「歌舞伎は物語もいけれども、やはり歌舞伎は舞踊だ」ということをおっしゃる。まあ、玉三郎と菊之助の「二人道成寺」なんていうのは、本当に目に焼きつきますね。実は最近、東映ケープルを引いて観ています。



映画「鉄道員<ぼっぼや>」の北海道滝川でのロケ初日に、主演・高倉健さん(右)と「男の約束」でカチンコを鳴らした泊氏(平成11年1月15日)



映画「ホテル」(平成13年公開)のロケ現場で

泊 それがあります。

三吉 東映さんは「網走番外地」の任侠路線から、実録に行ってしまうですね、深作欣二監督の「仁義なき戦い」とか。同じ任侠でも、最初のころの任侠と終わりのほうでは、ちよつと違うと思いますが。

泊 その通りですね。お話のあった学生運動盛んな頃、学生たちはじめあれほど任侠映画を支持していた人たちが次第に離れて行ってしまふんです。東映も、おつしやるように実録路線に転換して行きます。

岡田茂さんはよく10年周期説を唱えていましたね。時代劇全盛期は10年で終わった。任侠路線も10年で終わりを迎えました。「仁義なき戦い」の大成功で始まった実録路線は10年とは持ちませんでした。

三吉 やはり時代背景でしようか。

泊 おつしやるように時代背景ですね。テレビの普及とともに時代劇はテレビに取って代わられました。東映のテレビ部でも「銭形平次」「遠山の金さん」「桃太郎侍」など毎週何本も時代劇を作っていたし、視聴率20%なんてのはザラで「銭形平次」なんかは40%もとっていましたから。映画のドル箱だった「忠臣蔵」「水戸黄門」「次郎長三国志」も全部テレビのものになる。任侠路線の場合も次第にマンネリ化していき更に藤純子が「関東緋桜一家」を最後に結婚引退ということもあって実録路線に舵を切るんですね。

路線転換と一口に言ってもこれまで支えてきた人を切ることですから大変なことで、任侠に切り変わるも千恵蔵はテレビに向かい、右太衛門は東京に去りました。

実録に切り変わると志が合わない鶴田浩二や若山富三郎も去って行くんです。実録路線は実在の人物をモデルにしたりするものだから社会問題も生じてそう長くは続きませんでした。映画は路線という線ではなかなか考えられなくなって点で勝負の時代になりました。

三吉 なるほど。僕なんかの記憶ですと、実録路線、任侠の終わり頃から出てきた菅原文太さんの「トラック野郎」が当りましたね。

泊 すごくですね。東映映画に精通していらっしやいますね。(笑)

「トラック野郎」も大ヒットしたシリーズでした。確か6年間で10作まで続きました。あれは愛川欣也さんが見つけて文太さんが押し通した企画と聞いています。岡田茂さんは「映画は不良性感度だ」と言っていました。私は善良性感度のテレビを作りながらそれを見ていました。

三吉 資料を拝見すると、映画の企画にあたって「泣く、笑う、握る」がキーワードだというお話がとっても興味深かったです。

泊 東映映画の要諦は「泣く、笑う、握る」だと入社した時から徹底的に叩き込まれるんです。「泣く、笑う」は松竹や東宝でも同じですけど、東映は手に汗を握るの「握る」がはいります。東映の娯楽映画三原則、会社の個性ですね。ここで稼ぐんだぞ！というメッセージです。

三吉 東映さんは「握る」というところが非常に肝だということですね。

泊 はらはらどきどき。アクション、サスペンス。その辺がとっても…。

三吉 ついでに、お金も握って来い、ということ(笑)

三吉 そうですか。先ほどのお話に戻りますが、実は大原麗子さんのご実家には私も幾度かお盆とかに行っていました。もう古くからのお檀家です。そして、亡くなられて大原家のお墓にお入りになる四十九日やその後の一周忌の時は、石井ふく子さん、それから印象的なのは浅丘ルリ子さん、若村麻由美さん等もお見えになっておられて、随分いろいろな方がお参りに見えました。その中に高倉健さんがお墓参りにお見えになられたようですね。

あの当時の、10代から20代の浅丘ルリ子さん、大原麗子さんは本当に可憐ですね。今の女優さんとはちよつと違うんですね、これは泊さん、いかがですか。

泊 どうして違うのか私も分かりません。今の女優さんは皆同じように見えますね。

三吉 ええ。(笑)

泊 大原麗子さんは素敵でしたね。東映では不良少女のような役でスタートしましたが、テレビの時代になると「お嫁さんにしたいナンパワゴン」と言われる女優になり大河ドラマの主役も演じて大女優になりましたよね。パーティー会場で浅丘ルリ子さんと並んで「こんにちわ」なんて声をかけられた時はもう本当にウツトリでした。

時代劇の魅力

三吉 時代劇も多く製作されましたね。

実は昨年の私どもの宗派の派祖でございます日隆聖人の550遠忌という大変記念すべき年で、また妙壽寺が本堂を再建して30年でもありました。同時に私の母堂の33回忌を行いました。去年1年間は、ずっと私は母堂のことを思いながら過ごしたように思います。その母堂は時代劇が大変好きでございまして、私が、物心がついた時から、母堂が観るテレビ番組は、一番好きな市川右太衛門さん。

右太衛門さん、もちろん東映の大御所、もう一人の大御所の千恵蔵(片岡)さんもいて、この頃からカラーのテレビになった時代で、「旗本退屈男」を母堂がすごく喜んで観ていました。ただ、子供心に不思議だなと思ったのは、出るたびごとに着ている着物が違うんですね。(笑)

泊 その通りです。よく観ていらっしやいますね。

三吉 あれは今考えると、ちよつと非日常というか、すごくよかったなど。

泊 退屈男の衣装はその都度新調していました。着物の模様は専属の高名な日本画家が描いていました。右太衛門さんは一度着た物は二度と着なかったのですが、衣装は全部行李にいで大事に保管していましたね。誰かに使おうと思ってもアレを着れる人は居なかったそうです。

刀も毎回新調していましたから、まさに大スターです。ご子息の北大路欣也さんから聞いた話ですが、右太衛門御大から「スターは仕事がない時こそ、スターでいなければいけない」と聞かされたというので。私たちは欣也さんで二代目退屈男をやったけど御大は許可してくれませんでしたね。

三吉 あと、長くお寺のお手伝いいただいたおばあ様(本多やす刀目)がいて、「素浪人月影兵庫」が大好きでした。劇中で兵庫が「おから」が好物なので、「おから」をお届けしたいとも言うておりました。

近衛十四郎さんは、松方弘樹さんのお父様です。

泊 松方弘樹さんと目黒祐樹さんの父上ですね。立ち回りは天下一品でした。松方さんも立ち回りはすごくいです。

三吉 そうですか。あの後、「素浪人花山大吉」になりましたね。

泊 「月影兵庫」は高視聴率でしたからずっと続けたかったけど、長く続くと原作から脱線していくものですから、原作者の南條範夫先生からストップがかかりましたね、泣く泣く花山大吉に変えたわけですね。(次号に続く、文中敬称略)

Profile

とまり つとむ 泊 懋氏

昭和30年 慶應義塾大学文学部卒。同年 東映(株)入社。

昭和57年 取締役役に就任。

平成2年 常務取締役に就任。

平成5年 東映動画(株)取締役社長。東映(株)取締役副社長などを兼任。

平成14年 日本動画協会を設立、初代理事長に就任。

平成15年 東映アニメーション(株)代表取締役会長に就任。相談役を経て平成24年 退任。

現在 社会貢献支援財団・日本科学振興財団評議員、日本動画協会顧問など。